

市況に左右されない企業体質目指し多角化推進し収益拡大目指す

株価 687 円 (2/20) 時価総額 103 億円 (2/20) 発行済株 15051 千株 (2/20)
 PER (20/6 : 11.3X) PBR (0.87X) 配当 17 円 配当利回り : 2.47%

要約

- ・20/6 上期は鉄スラップ市況安の中で資源循環事業海外が寄与、7.6%増収 57.8%増
- ・20/6 期予想に変更無く、グローバル資源循環事業寄与で0.6%増収、16.9%増見通し
- ・21/6 期以降は LIB リサイクル、バイオマス等の非市況事業拡大も寄与し収益拡大
- ・株価は SDG s 関連として PBR1 倍の 785 円割れは割安感あり

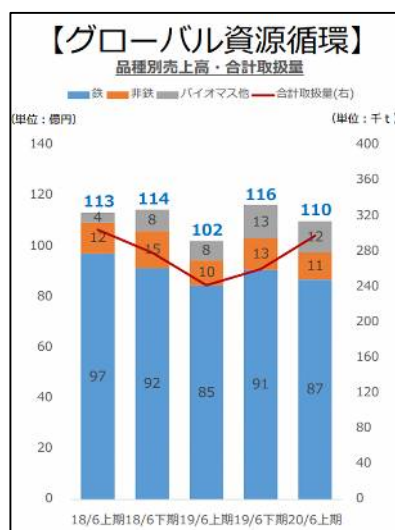
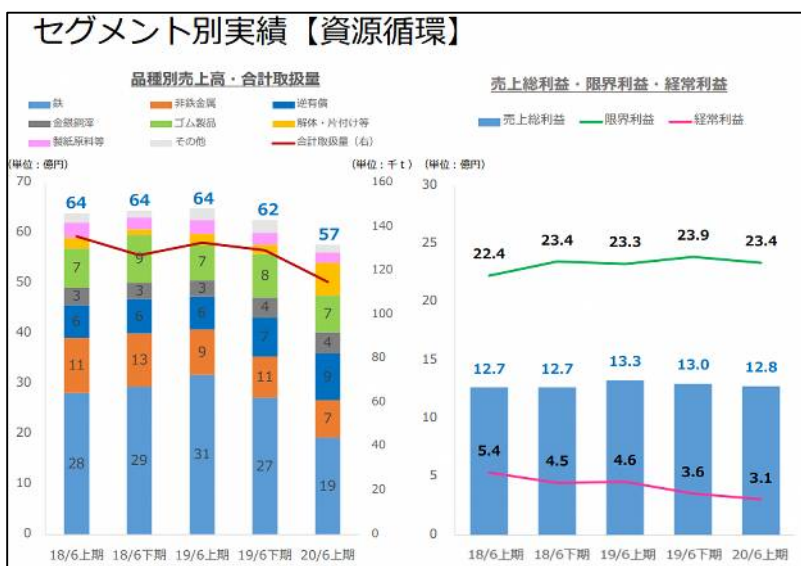
20/6 上期は鉄スラップ市況安の中で資源循環事業海外が寄与、7.6%増収 57.8%増

20/6 上期決算説明会が 2/19 に実施された。

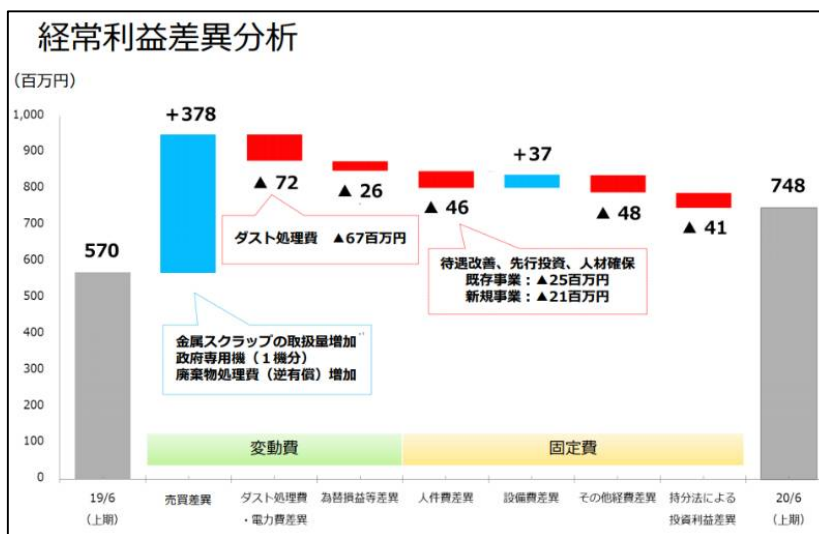
20/6 上期業績は、売上高 187 億円 (7.6%増)、営業利益 6.6 億円 (57.8%増)、経常利益 7.48 億円 (31.2%増)、税引利益 5.49 億円 (75.0%増) と、鉄スクラップ価格が平均価格で 10780 円下落し 24302 円 (30.7%下落) の環境厳しい中で、資源循環海外などの拡大が寄与、増益を確保した。

主力セグメント別では資源循環事業が 57.75 億円 (10.4%減)、営業 3.10 億円 (33.3%減) と、売上面では市況下落を数量増で補い減収を最小限にとどめた。一方、利益ではダスト処理コスト増などもあり、大幅減益に。一方、これを補ったのがグローバル資源循環事業で、取り扱い増と相場変動を活用、政府専用機の販売も加わり、売上高 110.07 億円 (7.6%増)、営業 3.94 億円 (2.9 倍) に。

経常利益増減では金属スクラップの取り扱い増、政



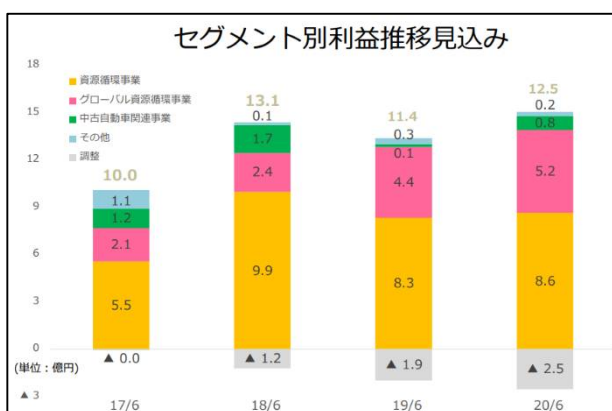
府専用機(1機分)、廃棄物処理費(逆有償)などで3.78億円の増益効果、一方でダスト処理非等0.72億円、固定費増0.98億円などとなっている。



20/6期予想に変更無く、グローバル資源循環事業寄与で0.6%増収、16.9%増見通し

20 鉄相場 25000 円/t、為替 1\$ = 105 円前提に、期初計画を変更せず、売上高 365.71 億円 (0.6%増)、営業利益 9.81 億円 (16.9%増)、経常利益 12.51 億円 (9.6%増)、税引利益 8.92 億円 (13.4%増) 予想とした。足元、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出始めており、鉄スクラップ価格が弱含み、人件費増継続も影響する見通しで、下期は前年同期比 5.7%減収、23.8%増見通し、12.1%増見通し。経常利益では資源循環新規事業損失が 2 億円あり、実質 27.2%増見通しとなる。

主力セグメント別経常利益予想では資源循環事業が市況軟化を尼崎のスクラップヤードフル寄与、川崎も 4 月にヤード確保、など数量増で補い、さらに利益面では逆有償などの拡大 (20/6 期



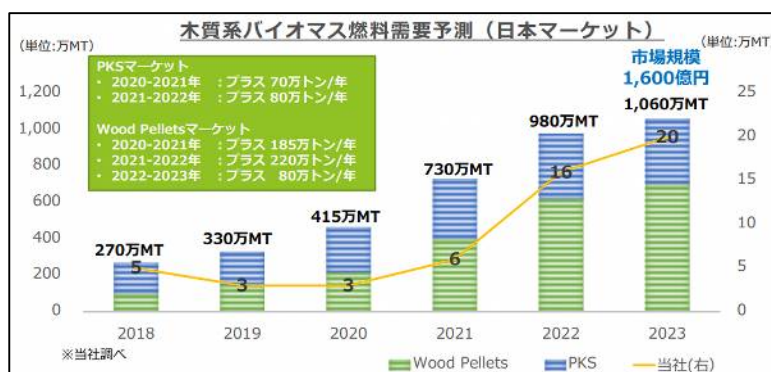
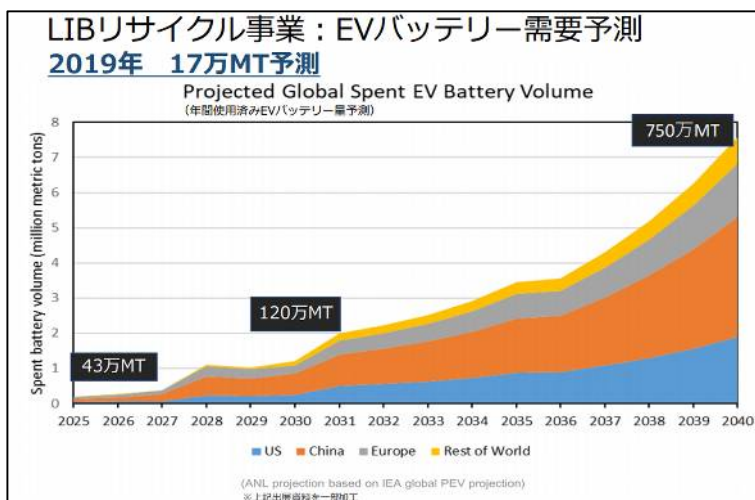
6 億円増の 19 億円予想) で経常利益は 8.6 億円 (3.6%増) を見込む。グローバル資源循環は数量増、政府専用機 2 機など寄与し 5.2 億円 (18.2%増) を想定している。

現状、Q3 については新型コロナウイルスの影響をうけざるをえないものの、Q4 には騒動が収まっている前提で、通期会社計画の達成は可能と判断する。

21/6 期以降は LIB リサイクル、バイオマス等の非市況事業拡大も寄与し収益拡大

21/6 期以降は、グローバル化の一段の拡大、LIB リサイクル事業の本格立ち上げ、木質バイオ燃料取り扱い拡大、廃プラ処理など、新規事業の拡大が寄与、既存事業でのシェアアップとともに企業価値の向上が続こう。具体的に LIB 事業では設備の導入が 20/6Q1 に完了、プラント稼働が計画より遅れているものの、21/6 期には日本に加え、欧米からも使用

済み電池の輸入を行い、2022年以降のセカンドフェーズをにらみ本格拡大を目指す。木質系バイオマス燃料事業も、PKS販売が20/6期3万トンまで拡大、木質ペレットの取り扱いもはじめ、輸入、3国間貿易の拡大を加速させる計画。このほか、金銀渣回収事業は落じん灰拡大戦略が見込め、全体として環境・再生エネルギー関連事業中心に拡大を進め、非市況関連での収益多角化で収益拡大が続こう。



株価はSDGs関連としてPBR1倍の785円割れは割安感あり

株価は会社予想EPSに対しPER11.8倍に割高感はなく、Q4にもLIBリサイクルビジネスの開始などが話題となれば、木質バイオや廃プラ議場展開を含め、SDGs関連銘柄として、少なくともPBR1倍を超えて上昇する実力はあるとみられる。なお、2/24公開予定のリバーホールディングスは筆頭株主がベステラではあるものの、同社も3.15%、54万株保有しており、新規公開で高い値段がついた場合には多少反応する可能性がある。

エンビプロ	(百万円、円)									
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当
18/6期	37,456	28.6%	1,002	25.7%	1,319	31.8%	840	9.3%	64.64	17.00
19/6期	36,336	-3.0%	839	-16.2%	1,141	-35.0%	787	-6.4%	52.96	16.00
20/6期会予	36,571	0.6%	981	16.9%	1,251	9.6%	892	13.4%	60.98	17.00

